

【オンライン開催】ゴッホの読み方ー夏目漱石、白樺、民芸、小林秀雄の視点から

ゴッホは、近代日本が出会った西洋絵画を代表する巨匠であると同時に、近代ヨーロッパの日本美術への憧れを象徴する画家でもありました。そのゴッホの日本の美学をいち早く見抜いた夏目漱石、ゴッホの名を日本に知らしめた柳宗悦や武者小路実篤らの白樺派、ゴッホの悲劇に託して「表現の自由」の大切さを訴えて戦後新劇の最大のヒットを放った劇団民芸、そしてゴッホを論じて今日の美術批評の基本となる文体を確立した小林秀雄らの業績を紹介しながら、ゴッホの尽きせぬ魅力を読み解く講座です。

【受講料】 1,300円**【受講料以外の費用】** なし**【時間・場所・定員】**

- 15:00～16:00
- Zoom ウェビナーによる開催
- 定員90名

【その他】

- 講座の録音、録画、画面キャプチャー（撮影・保存）を禁止しております。
- 通信料等は受講者負担となります。

【講師】 教授 西岡 文彦**【開講日と内容】**（全3回）

- ① 10月13日（木）
夏目漱石の絵手紙とゴッホ
- ② 11月17日（木）
柳宗悦の民芸と劇団民芸の『炎の人』
- ③ 1月12日（木）
小林秀雄とゴッホの眼